

ピックルボールマナー

ピックルボールを気持ちよく行うためのポイントをまとめてみました

下記の文献を参考にゲーム中に好ましいふるまいについてまとめたものです。

Pickleball FYI (Pickleball pocket guide) by Dave Schwan

はじめに

- ゲームに誘われたら

レベル分けが行われていないグループ内で、自分よりレベルが高い相手に誘われたら物怖じしてしまうかも知れませんが、**遠慮せずに**ゲームに参加しましょう。お互いに学ぶことが多いことを認識しましょう。

- リスペクト

メンバー、パートナー、対戦相手に**敬意**を払いましょう。楽しくプレイするのはあなたの心がけ次第です。

ゲームの時に

- ゲームの始まりは挨拶から

ゲームを始める時は、よろしくお願ひします、の挨拶から始めましょう。

- コートの後ろを歩かない

ゲームのラリーが継続中の時は**後ろを通らない**ようにしましょう。ポイントの切れ間の間に素早く通るようにしましょう。

- 謝りすぎない

ミスをした時は謝ることも大切ですが、相手がとても良いショットをした上でのミスはあなたの責任ではありません。**相手を褒め**ましょう。

- スコアのコールははっきりと

お互いのためにサーブの前に**スコアをはっきり**と言ひましょう。パートナーは確認して訂正が必要なら教えてあげましょう。

- 喜びを表す

とても良いショットが決まったら、喜んで大丈夫、パートナーも大いに祝福しましょう。ピックルボールではパドルの先をちょこっと合わせるパドル合わせをします。ただし、相手のミスによるものは喜びは控えめに。

- 特定の相手を狙わない

ボールの配給は**平等**に。

- ボールを渡すとき

ボールが転がり自分のところにあるときに拾ってパートナー、または対戦相手にボールを渡すときは**手で投げる**、が基本です。届きそうにないとき、パドルで打つ時は山なりのボールを打ちましょう。相手の目を見て渡す意志表示をしましょう。蹴る、きついボールを打つのは避けましょう。

- ボディーには打たない

ボディーにショットを打てるのはスキルレベルが4.0以上と推奨されています。顔に打つのはもつてのほかです。ただし、コントロールできずにボディにいつってしまうこともあるでしょう。その場合、相手が返球できたとしても、きちんと謝りましょう。

- 待ちましょう

サーブの時は、パートナー、対戦相手、または、後ろを通ろうとしている人がいないか確認して、全ての準備が整っているのを確認してからサーブしましょう。

- パドル合わせは頻繁に！

パートナーと、パドルの先をちょっと合わせる、パドル合わせは、良いショットが決まった時だけでなく、自分たちがミスした時もやりましょう。自分のミスにがっかりするともあるでしょう。パートナーも同じ気持ちです。切り替えていこう、ナイスライ！の意思表示に、ゲーム中頻繁におこないましょう。

- イン？アウト？

相手の打ったショットがライン付近に来て、サーブならフォルトなのか、ロブ、ストロークなら、アウトなのか、自分でジャッジしなければなりません。わからない時は、相手に有利になるジャッジをしましょう。パートナーが、今のはアウトでは？と言っても、自分で判断できない時も同じです。また、相手コートのジャッジをするべきではありません。

- ゲーム中のコーチング

ゲーム中にコーチングしたくなくてもなるべく控えましょう。パートナーが良いショットをした時には大いに讃えましょう。ゲームを終えてから、わかりやすいアドバイスをあげましょう。

- カットインは禁止

ゲームに勝ちたいあまり、パートナーに来たボールを自分で打ちたくなることもあるでしょう。しかし危険が伴うので、意思表示なしにやってはいけません。自分がコートのバックサイド側において、真ん中に来たボールは、パートナーのバックハンドにあたるため、それを捕球するのはフォアハンドを使えるあなたです。ただ、パートナーと予め決めておくか、気付いていない場合、「ハイ！」「取ります！」などの意思表示をしましょう。危険な行為にならないよう気を付けましょう。

- ネットインはごめんね

ネットにかかってしまうショットはミスですが、思いがけず、相手コートに、しかも相手が拾えないところに落ちることによりウイナーになることがあります。喜ぶのではなく、ごめんなさい、の意思表示をしましょう。

以上は下記の文献を参考にゲーム中に好ましいふるまいについてまとめたものです。

Pickleball FYI (Pickleball pocket guide) by Dave Schwan